

第4次広陵町総合計画後期基本計画策定懇話会（第1回） 議事録要旨

開催日 平成28年5月13日（金）
午後6時から午後8時10分
場 所 さわやかホール 4階 大会議室

委員（全20名）

公募委員	9名・各種団体の長	4名
知識経験者	4名・大学関係者	3名

事務局（全29名）

町長、副町長、教育長 他各部長級職員
事務局（企画調整課、まちづくり推進課）
庁内プロジェクトチーム 12名

午後6時開会

1 委嘱状の交付（代表受領）

町長より、各委員に委嘱状を交付。この日出席の20名に委嘱状の交付を行った。

2 町長あいさつ

昨年は町制施行60周年であり、皆さんにご協力をいただいたことにより開催できたことを心より感謝したい。月日の経過は早いもので、総合計画を策定してから5年が経過した。前期基本計画が今年度までである。

総合計画は、広陵町のまちづくりの道しるべ。社会を取り巻く情勢は刻々と変化しており、基本理念を堅持しながら計画を立て、実行し、地域に根付くようにしたい。

広陵町の人口について、商業施設や土地利用の緩和などにより宅地化が進み、一定の人口増加がみられる。4月28日付で出生届を出された方で、町の人口が35,000人に到達した。本日（5月13日）、その赤ちゃんに35,000人目の認定証を交付した。

昨年度、国が策定を求めた総合戦略に基づき、「広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。国の交付金を活用し、事業展開を計画していくこととしているが、その前提となる「人口ビジョン」については、人口増加となるよう施策を記載している。それでも広陵町の人口は3万人を下回る推計なので、平成72年（2060年）までに3万人を維持するように目標を定めている。この総合計画の中には、人口の長期目標として「4万人のまちづくりを進める」としているの、それと比べるとかい離している。その点についても議論いただきたい。

次に財政状況について、経常収支比率は平成26年度決算で99.6%で県内で悪い方から4番目である。経常収支は、経常的な収入、町税や地方交付税などに対する経常的な支出、経常一般財源のこと。ギリギリの生活をしていると見られがちだが、一方で充実した生活ができているとも言えるため、議論が分かれるところである。この割合が低いほど財政にゆとりができるので、どのようにしたらよいか議論いただきたい。

続いて、進行中の大きな事業について説明したい。中学校給食センターを建設中で、2学期から香芝市と共同で中学校給食を実施する。また、役場庁舎の耐震補強を今年いっぱいの中で実施する。

北幼稚園と北保育園を統合し、認定こども園を整備する。保育園では待機児童が出ないよう対応しているが、増築したものの北保育園が老朽化し、このままでは施設がもたない。現在は用地も確保し、設計に入っている。

真美ヶ丘配水場施設の耐震化も進めている。高架水槽からポンプ配水への切替を6月1日に行う。耐震管への入れ替えも順次実施していく。

ごみ処理施設については、現在のクリーンセンターが地元との約束で15年限りの操業となっており、あと6年を切った。次を考えていたところ、ごみ処理の共同事業を天理市を含め10の市町村で実施することに決定した。4月から組合を立ち上げ建設を進めていく。しかし、ごみを集める中継施設は町内のどこかに建設しなければいけないという課題がある。

本日は第1回目の懇話会となるが、本日を含め今後回を重ねての議論をお願いしたい。

3 懇話会会長及び副会長の選出

会長・副会長の選出について、委員より事務局案の提示を求められ、事務局より選考委員による選出法を提案する。委員による了承の後、各部門ごとに協議のうえ選考委員を2名ずつ選出し、別室において選考委員会が開催さ

れた。

選考委員：（6名）

選考委員長より、会長に畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科教授の三井田康記氏、副会長に農業委員会会長の松村和親氏を選考した旨の報告があり、全委員により承認された。

（会長あいさつ）

皆様のご協力により盛り上げていき、広陵町が素敵で魅力ある、みんなが生き活きとできるまちにしていきたい。この懇話会では、その第一歩の後押しができるようになりたいと思うので、皆さんの協力をよろしくお願ひしたい。

（副会長あいさつ）

懇話会では、町に対しての提言、また、すばらしい議論をしたいと思う。微力ではあるが頑張りたい。皆さんの協力をお願いする。

4 総合計画策定方針・スケジュール

総合計画は、計画期間が10年間の基本構想、5年間の基本計画の2つをもって構成されている。このうち前期基本計画期間が平成29年3月で終了することから、この計画に続く後期基本計画の策定が今回の主目的となる。（詳しくは、別添の資料2～4を参照のこと）

会長： ただいまの事務局説明につきまして何かご質問、ご意見等ございませうか。

委員： 策定方針のところで、「既存の計画との整合性を図った計画を策定する」とある。総合計画は上位計画だということは分かったが、各施策の項目に計画はもっとあるのでは。関連付けたものがあれば整合性をとるという意味がわかる。

また、実施計画が3年単位で毎年見直しをされているようだが、前期の評価ということならば、ほとんどできているのではないか。

事務局： 福祉であれば介護計画や福祉計画などがあるが、これらはすべて

この総合計画を反映している。相関図など視覚的に分かりやすい資料を次回の懇話会までに用意する。また、実施計画については、毎年作成しているので、これらについても資料をお渡しし、進捗状況をお示ししたい。

委員： パブリックコメントなどをする予定みたいだが、こういうのは広報やホームページでお知らせすると書いてある。前は本当に広報紙やホームページで紹介されていなかった。このようなセレモニーはしっかりやっているが肝心なものが出ていない。

事務局 事前に打ち合わせを行い、会議の経過をしっかりと示そうと計画をしている。懇話会そのものを議事録にすると時間がかかるので、要点を取りまとめたものを、まずはホームページを通じてタイムリーにお知らせしたい。広報紙になるとタイムラグがある。

委員： 広報紙となると形式は決まっているのか？

事務局： まず、ホームページで要点について公表し、その後に議事録をあげたい。議事録をあげる際には、皆さんの氏名を抜いてよいか？

会長： ただ今、事務局から氏名を抜いた形で議事録を作成するという案が出たがいかがですか？（委員、異議なしの声）

委員： 傍聴はできるのか。この会議は公開なのか。

会長： 傍聴については、設置要綱には記載していないが会議は公開で良いと思うが、いかがか？（委員、異議なしの声）

そうしたら公開となる。この方が住民参加ができオープンな議論ができるので、ぜひそうして欲しい。

事務局： 一般の方が傍聴できるように何らかの形で周知をしていく。

5 意見交換

会長： まだまだご質問があると思うが、議事も残っているので次に移らせていただきたい。

委員の皆様一人ずつに自己紹介を兼ねて、広陵町のまちづくりに向けてのメッセージをお願いしたい。

（以下は、各委員により発表のあった内容。要点のみ記載。）

- 農業とは全く無縁だったが、定年後、農業の話題が色々出てくる。農業のことは全く分からない。この懇話会でもそういう話題が出てきて戸惑うだろうが、しっかりと勉強したい。
- 会社員の頃は計画づくりの部署にいたので、総合計画のようなものが好きである。子どもや孫が住みたい町、住んでほしいと思えるような町になって欲しい。この計画に参画するのも良いが、子どもや孫をここに来てもらうようにするのが私の使命かもしれない。しっかりとこの計画づくりに参画したいと思う。
- 生まれも育ちも大阪だが、結婚を機に広陵町へ移住。この町が好きである。自分の子どもに良い環境を与えたいと思い移住した。この町を、もっと活気あるまちにしたいということから参加した。
- 定年後は、広陵町に24時間ずっと住んでいる。高齢になると、この町にいかんか安心して住めるまちか。すべての住民が安心して住めるまちに、という意見を持って参加したい。町長から経常収支で悪い話が出ていたが熊本地震でもそうだったが、役場の方が中心となっていていろんな形でサポートを行っていた。役場の安全のため、役場の機能向上のためにも、役場に対するお金は、あんまり切り詰めない方が良いのではないかと思う。
- 5年前にもこの会議に参加したが、広陵町に住んでいながら広陵町のことをあまり分かっていなかった。子育ても終わり、ふと「協働とはなんなんだ？」と思ったが、一住民がどこにいけばその協働ができるのか、最初はさっぱりわからなかった。今はその協働が高じて、大学に入って農業中心の住民参加のまちづくりの研究を行っている。
- 広陵町に住んで30年近くになるが、とても心地よく暮らしている。母親をこちらに引き取ったときも、広陵町の方に温かく迎えてもらった。子どもの手が離れてからは、団体に入って活動を行っている。今回の会議は、以前に比べて活気があるように思う。ぜひお役に立てれば。
- ここに住んで18年目であるが、広陵町は地方色と都市色が混在している。行政的にも難しいと思う。ターミナル駅がなく、メインストリートもないが、幸い大阪に近いから人口が増えている。文化的な面で、町の特色を深めるものを行政として推進してほしい。
- 靴下のまちで、私も靴下の製造に携わっている。靴下産業は今、ギリ貧である。しかし潰してはいけない。大事な知識や伝統を若い人にもう少し継承してもらいたい。一旦なくなってしまうと、もう一度再生するのは不可能だと思う。靴下に関わる作業の場が減ってきている。若い人にここで仕事ができるような形態を家族で模索している。

- 歴史のあるまちで、道路も河川もきれいな町である。経常収支比率が悪いと聞いたが、これは単式簿記の場合だろうか。複式簿記で償却などを考えると、もっと比率が下がって安心できるのではないか。文章だけの策定計画だけでなく、数値計画のようなものもあれば良いのでは。
- 県内外でさまざまな計画づくりに参加している。計画づくりに必要なのは首長のやる気と職員のモチベーション、そして住民の関心である。この3つがそろえば良い計画ができる。一体感、共感できるようなまちづくりの話し合いができれば。
- まちづくり関係の会議に参加しているが、専門が教育なのでどうしても教育に目がいく。広陵町では待機児童がないことに感心した。学校教育に対する満足度や学校環境に対する満足度が高いのも素晴らしい。広陵町の皆さんの積極的な発言に感心した。計画のトップに住民参加となっているのもすごいことである。
- 最近、小さな介護事業を始め、高齢者の手助けを行っている。行政が見えないような手助けをしていきたい。これがまた福祉の政策につながっていけばと思う。ごみ処理が、天理市などと広域化になったことについて、本当に安心した。
- 家の近くに古墳があったがその認識がなく、これではだめだと思って文化財の保護を長年している。自分が生きている間に、町の歴史資料館ができることを願っている。
- 時代の流れによって、広陵町の靴下の生産体制は崩壊している。今、政治家は地場産業を盛り上げようと言っているが。子どもが家業を継いでくれたので、ぜひ工場が建てられるようお願いしたい。駅がないからこそ、田舎の良さを残していきたい。
- 妻が広陵町の出身。こちらに来ているうちにだんだん好きになり移住した。地域の何か役に立ちたいと思っていたところへ、ごみ焼却場の問題があり、関わることでいろいろなことがわかった。広陵町の問題に触れれば触れるほど愛着を感じている。後輩にも広陵町を紹介し、何人かは移住している。
- 住んでいる地域はほとんど戸数の増減もなく、地域のつながりが強い。長年教員を勤めたが、本当に人間教育できたかどうか、退職した今でも分からない。何らかの役に立てるように頑張りたい。
- 町から委嘱を受けて文化財ガイドを行っている。町にある古墳の紹介などを時期を決めて開催している。
- 以前住んでいたところは行政が冷たかったが、広陵町に来た時にずっと

一人の職員の方が案内してくれたことが本当に驚きだった。防災士の資格を取得し、自主防災会にのめり込んでいる。町はフェイスブックを出しているが、誰も「いいね」をしない。もっと町も住民も活用して欲しい。活発にしているところほど「いいね」が多いと思う。

6 その他

会長 ありがとうございます。委員の皆さんがいろいろ持っている意見をいただいた。今後の懇話会の議論の中でお願いする。いただいた意見は、計画案に反映できる部分は是非ともお願いしたい。
最後に事務局から連絡事項があるようなのでお願いする。

事務局 事務連絡の説明

会長 それではこれをもって第1回目の懇話会を終了する。気づいた点があれば、事務局に連絡していただいたらありがたい。
委員のみなさまには、夜間にもかかわらず、長時間ありがとうございました。

閉会 午後8時10分

以上